

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-181	14-084	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
An exploration of the dynamic longitudinal relationship between mental health and alcohol consumption: a prospective cohort study. 精神保健とアルコール摂取に関する縦断的研究：前向きコホート研究		
<b>執筆者</b>		
Bell S, Britton A.		
<b>掲載誌</b>		
BMC Med. 2014 Jun 3;12:91. doi: 10.1186/1741-7015-12-91.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
アルコール、精神保健、横断的研究、相互作用		24889765
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b> 精神保健と飲酒との関連については、その因果関係が不明確な点がある。本研究では、精神保健と飲酒の関連について、これらの因果関係に関する 4 つの理論モデルから最も適合するモデルを選択することを目的とする。		
<b>方法：</b> Whitehall II 前向きコホート研究のうち、1997 年から 1999 年まで、2002 年から 2004 年までおよび 2007 年から 2009 年まで約 10 年間のフォローアップを行った 6,330 人(男性 73%、平均 55.8 歳, SD±6.0 歳)のデータを活用した。1)飲酒と精神保健とが互いに影響しないモデル、2)ア飲酒が精神保健に影響を与えるが、精神保健は飲酒には影響を与えないモデル、3)前者の逆パターンのモデル、4)双方が互いに影響し合う相互作用モデルの 4 つの理論モデルが検討された。なお、飲酒量は、一週間の飲酒量をイギリスでのユニット単位で評価した。精神保健は、精神保健構成尺度 (the mental health component score: MCS) の簡易版 (the Short Form(SF)-36 questionnaire) を利用した。		
<b>結果：</b> 上記 3) の精神保健が飲酒量に影響を与えるが、飲酒は精神保健に影響を与えないモデルが最もコホートデータにマッチした。このモデルにおいては従前の精神保健の状態が、飲酒にマイナスの影響を与えた ( $\gamma = -0.31$ , CI $-0.52$ から $-0.10$ )。このことは、精神保健が良いと、飲酒量が減少するか、あるいは増加量が少ない傾向があることを示している。		
<b>結論：</b> 中高年においては、精神保健が、飲酒量との縦断的關係における指標となると考えられる。飲酒量の少ない人たちの摂取増に加えて、精神保健が良くないと、飲酒量の多い人に多量摂取を維持させる要因となる可能性がある。今後、精神保健と飲酒量の関連において、危機的なアルコール摂取量のさらなる研究が必要である。		